

猟師の弥与門さん

（『たんなんの民話と伝説』

丹南ライオンズクラブより）

昔々、丹波の国、多紀の郡草野村に猪狩りがものすごく上手な弥与門さんという人が住んでおったそうなの。

猪は村の人達が大事に育てとつてのお米やら、イモやら、豆やらを食い荒らすので、村の人達はたいそう困つとつたんやけど、弥与門さんが、次から次へと猪を退治してくれてのようになってからは、安心して暮らせるようになってたそうや。

ある日、猪狩りの上手い弥与門さんのことを耳にした篠山のお殿さまが、ぜひ一度一緒に狩りをしたいと所望され、摂津の国に近い草野村の八王子の山に来て、狩りをしてのこになったんやて……。

弥与門さんは、すぐに召し出されて、猪狩りの打ち合わせをしたそうなの。

「猪が出て来ても、私が撃つというまで、撃つてはなりませんぞ」
とお殿さまに申し上げて、狩りの準備にとりかかったんやて。

大勢の勢子（獲物を追い出す役をする人）やら犬が山を囲んで猪を追い出しにかかったそうや。谷や尾根のあちこちから、勢子の声やらホラ貝を吹く音が響きわたつたんやて。

そうしよる内に、近くで犬のけたたましい啼き声が出たかと思うたら間もなしに、猪を待ちかまえたつたお殿様の前に大きい猪が跳び出して来たんや。

そのとき、すかさず弥与門さんは、

「今だ、撃て！」

とお殿様の頭を平手で、「パチッ！」

と叩いたつたそうや。

「ズドーン！」

と一発。見事に命中して、

「ドッスン！」

と猪はもんどり打って倒れたんやて。

大きい猪の獲物にお殿様は、大喜びになったそうや。

そやけどな、その様子を近くで見つた家来やら、見物に来ておつた人達は、

「お殿様の頭を叩いたつた弥与門さんは、いったいどないなるんやろ」

「えらいことしてしもたな」

と、息をこらして見守つていたそうなの。そやけどな、弥与門はお殿様に、

「弥与門！ でかしたぞ！ アツパレ！ アツパレ！」

と、えらいほめられて、ようけのごほうびをもらったそうなの。

弥与門さんは、お殿様の寛大なお気持ちに感謝して、それから一生懸命に狩りに精を出して、幸せに暮らしたつたということや。よかつた。よかつた。